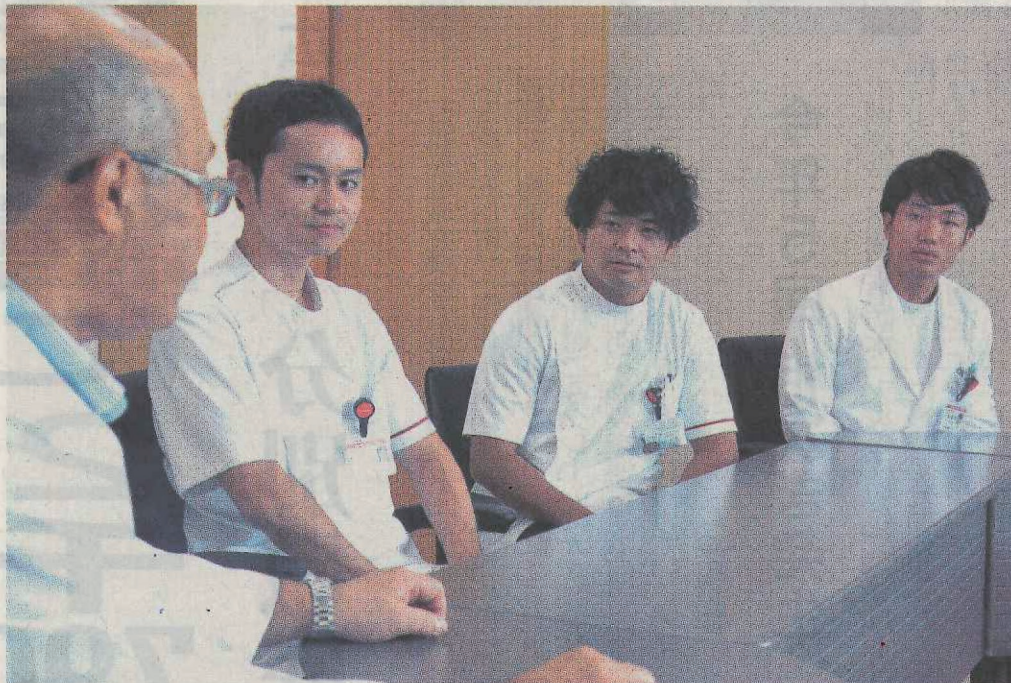


# 地域医療 現場体験

東邦大の3人

## 三愛病院で実習

千葉院長(左端)から地域医療の在り方などについて説明を受ける(右から)小堀さん、池田さん、田宮さん



東邦大学医学部(東京都)の学生3人が、21日から24日までの期間、三愛病院(登別市中登別町、千葉泰二院長)で実習に臨んでいる。精神医療や高齢者ケアといった現場を回り、地域医療の最前線で研さんを積んでいる。

同大は5年生を対象として地域医療実習を行っている。大学病院とは異なる環境を把握するため、学生が

地方の医療や介護の現場に  
出向いて現状を学んでいる。  
全国で約50カ所に研修  
場所があり、道内では三愛

病院のみ。千葉院長が同大  
出身であることから、20  
12年(平成24年)から学生  
を受け入れている。

今回訪れているのは、小堀俊満さん(23)＝東京都出身、池田太郎さん(23)＝同、田宮創希さん(24)＝埼玉県出身。外来診療やグループホーム、老健などの見学、病棟を回つての診察見学などに加え、盆踊りなど患者とのコミュニケーションを深める行事にも参加している。

父親が精神科の診療所を開設しているという小堀さん。「精神科での実習を希望していました。三愛病院は地域に根差した医療機関として知られているので、将来に役立てたいです」と述べた。池田さんは「大学病院は急性期医療がほとんど。地方の病院は慢性期医療が多く、患者さんに寄り添いながら診察する外来の在り方が分かりました」と話した。田宮さんは「三愛病院のグループとして、さまざまな施設が地域のために維持・管理されていることが勉強になりました」と語った。

千葉院長は「医師不足により地域医療が衰退している中で、今回の実習が地方に来るきっかけの一つになるかもしれない。結果として、地域に暮らす患者さんのためにもなる。学生は定期的に受け入れており、地域医療のためにも今後も貢献していきたい」と話した。